

審判上の確認事項

大会審判委員長

1. 本大会は、公益財団法人日本バレーボール協会 2024 年度「9 人制競技規則」により実施する。
2. プロトコールが開始されたら、競技場に入ることができるのは、競技委員に提出した構成メンバー表（コンポジションシート）に記載されたチーム役員と選手のみである。
3. トスに勝ったチームキャプテンは、「サービスを打つか、サービスをレシーブするか」、または「どちらのコートに入るか」を選択する。
4. 監督は試合中、チームベンチの最も記録席に近い場所に座るか、選手交代ゾーンに引いたラインの延長線からウォームアップエリアまでの自チームベンチ前のフリーゾーン内で立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。ただし、試合を妨害したり、線審の判定の妨げになるような場所に立ち止まることや、判定に影響を及ぼすような行為は禁止される。
5. 試合の中断（タイムアウト・選手交代）の要求は、ラリー完了後、次のサービス許可のホイッスルまでに要求する。ラリーが完了せずプレーがノーカウントとなった直後は、両チームとも中断の要求はできない。また、遅延警告の罰則が適用された場合は、そのチームは同じ中断中に中断の要求をすることはできない。
6. ボールの侵入などにより、ラリーがノーカウントとなった場合は、ノーカウントになったときのサービス（第 2 サービスサービスで始まったラリーなら第 2 サービス）で試合を再開する。
7. タイムアウトの要求は、監督がハンドシグナルを示して要求すること。監督がいないときは、ゲームキャプテンがハンドシグナルを示して要求すること。
8. タイムアウト終了のホイッスルの後、すぐにコートに戻らない場合や、サービス許可のホイッスルを遅らせる行為など、試合の進行を遅らせる行為は、遅延の制裁の対象となる。
ただし、タイムアウト終了のホイッスルを待たずにコートに戻ってもよいが、タイムアウトはあくまでも 30 秒間である。
9. 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示す必要はない。交代する選手は選手交代ゾーン内のサイドライン上で片方の手を上げ、交代の要求が認められたときは、副審の合図で交代する。
ただし、コート内の選手の負傷や病気による選手交代の場合は、監督（監督がいないときはゲームキャプテン）がハンドシグナルを示して要求する。
10. 複数の選手を交代させたいときは、その複数のすべての交代選手が確認できるよう時間を開けずに選手交代ゾーンに入ること。選手交代ゾーンに入るタイミングが明らかに遅れて、交代選手として確認できなかった選手が遅れて入ってきた場合は、その遅れた選手交代の要求は拒否される。
11. セット間は、他の試合の妨げとならない限り、自チーム側のエンドライン後方のフリーゾーンおよびサイドライン横のフリーゾーンで、ボールを使用してウォームアップをすることができる。
12. 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて、ラリー終了後速やかに拭くこと。モップの使用は、タイムアウト中、セット間、および審判が指示したときとする。